



巻頭言

「あり方」検討に思う

岩手県農業研究センター

企画経営情報部 部長 川嶋 明澄

少し前になりますが、今日の世相を映して、「下流社会」、「国家の品格」といった新書本がベストセラーとなり、富の偏在、格差拡大と騒がしい巷間で、人々が自らの生活や社会のあり方を探る術の一つとして市井にもてはやされているのかと考えさせられました。

終戦後～昭和30年代初めにかけての極めて困難な時代を直接知るよしもない世代にとって、今次の行財政改革の大波は、これまでに経験したことのない状況に映り、何を頼りにこの先進むべきか、私のごとき凡夫にとっては足がすくむ思いであります。

本県の行財政構造改革では、試験研究機関としても組織、業務の根幹からの点検、見直しを行い、農業研究センターのあり方のなかで、センターの使命は何か、今日的状況のなかでの研究分野、課題設定、組織運営はどうあるべきか、さらに、業績評価のあり方などについての検討に取り組んできているところであります。

こうしたなか、本年7月と8月の2回に渡り県内の有識者（農業者・農業団体、食品加工・流通事業者、学識経験者等11名）からなる「農業研究センター見直し懇話会」を開

催し、忌憚のないご意見を頂戴する機会を得ました。

県庁舎で開催した第1回目は、多くの委員からの「センターの姿や試験研究のターゲットが見えない」などという厳しいご指摘に、説明者として汗顔これに極まるの思いでした。農業研究センターでの2回目には、研究施設等をご覧に入れ、試験研究の取組状況をご説明したうえで懇話会を開催したところ、農業関係以外の委員をはじめ農業関係の委員からも、「これだけの取組みをしているとは知らなかった」というご感想をいただきました。

これまで「開かれた農業研究センター」を標榜し、積極的な情報発信に努めてきたつもりでしたが、センターの実情を広く知っていただくことの大切さを改めて痛感させられました。

世界の大海原に漕ぎ出す本県農業にとって、農業試験研究が羅針盤としての使命を全うし、その存在を評価いただけるよう、今更ながら顧客視点、県民視点を肝に銘じてセンターの「あり方」構築にあたる一員でありたいと思っております。

巻頭言 「『あり方』検討に思う」 …………… 企画経営情報部長 川嶋 明澄

トピックス・1

アスパラガス促成の安定化を図る研究を実施中

…………… 園芸畑作部野菜畑作研究室 山田 修

トピックス・2

水田における大豆の初期湿害を回避する小畦立て播種

…………… 園芸畑作部野菜畑作研究室 井村 裕一

トピックス・3

オリジナル小ぎく「アイマム」シリーズの開発により県事績顕著者表彰を受賞

…………… 企画経営情報部企画情報室 伊勢 智宏

お知らせ 農業科学博物館・第31回企画展「稲づくり作業と農機具」を開催中です

トピックス・1

アスパラガス促成の安定化を図る研究を実施中

グリーンアスパラガスの伏せ込み促成栽培は、夏期冷涼・早期秋冷の本県気象を活かした根株の養成ができ、冬期の所得が得られることから徐々に栽培が増加しています。しかし、年ごとに生産量がふれるなど、安定化に向けて解決すべき課題があります。

そこで、園芸畑作部野菜畑作研究室と県北農業研究所産地育成研究室では、共同でアスパラガスの休眠特性や、効率的な根株養成技術を明らかにすることで、生産性や品質を高める研究を行っています。

養成中の根株は、その重量は10月中旬以降ほとんど増加しないものの、糖度は掘取り時期が遅くなるにつれて上昇することが分かりました（図1）。

伏せ込んでからの根株1株あたりの商品茎数（1本5g以上）は、掘取り時期が遅いほど増加し、特に11月8日の掘取りからは大きく増加し、1株あたり商品茎重量も増加しました（図2）。

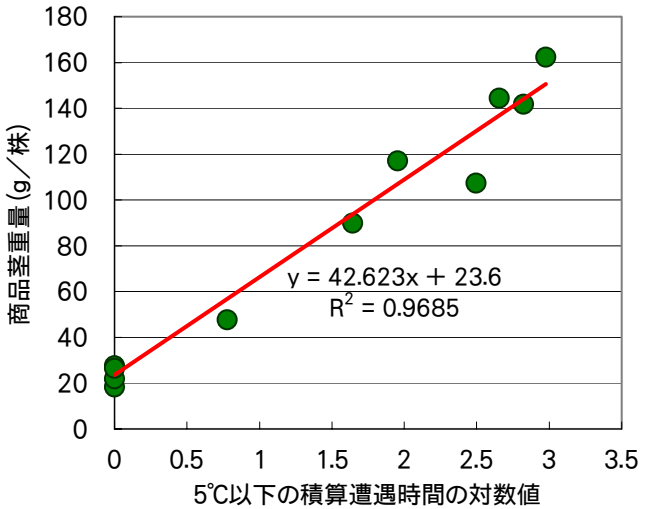


図3 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係（岩手農研・山田ら、2006）

そこで、商品茎重量と気温との関係を検討したところ、株養成期間の5°C以下の積算遭遇時間の対数値と正の相関がみられました（図3）。

根株が低温に遭遇することに伴う茎葉の枯れ込みや、茎葉から貯蔵根への同化養分の転流により鱗芽が肥大し、伏せ込み後に太い若茎が萌芽し商品茎重量の増加につながるのではないかと考えられます。

この関係を利用して、秋の冷え込みが早く訪れる岩手県の気象を活かした早期出荷作型の安定化を図っていききたいと思います。

また、産地育成研究室では、短い期間で効率的に根株を充実させる手段を研究開発中ですので、これらの成果を組み合わせることで促成アスパラガスの生産技術を確立します。

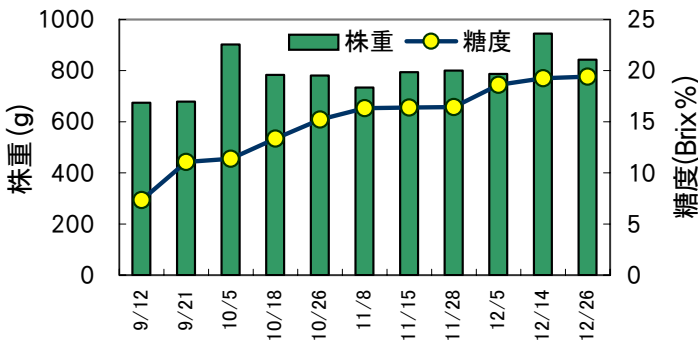


図1 根株掘り取り時期が根株重および貯蔵根の糖度に及ぼす影響（岩手農研・山田ら、2005）

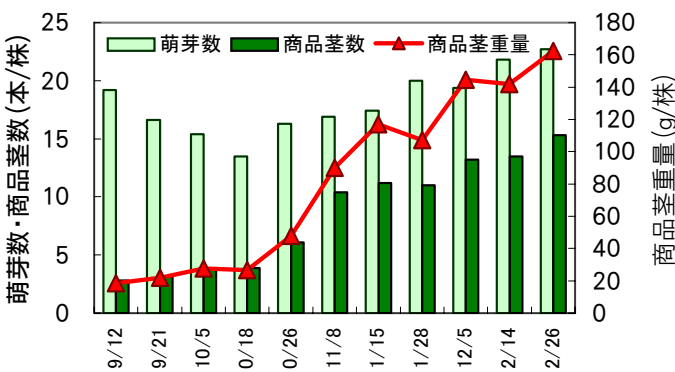


図2 根株掘り取り時期が萌芽開始後40日間の若茎の萌芽に及ぼす影響（岩手農研・山田ら、2005）



写真 アスパラガスの萌芽状況

トピックス・2

水田における大豆の初期湿害を回避する小畦立て播種

水田を中心とする岩手県の大豆生産においては排水対策が必要となっていますが(下表)、農業研究センターでは花巻市石鳥谷町で黒西地域農用地利用調整組合の協力のもと、小畦立て播種の現地試験に取り組んでいます。

これは、耕うん爪の配列を入れ換えた「代かきローター」に「施肥・播種機」を取り付け、播種時に10cmほどの高さの畦を立て、生育初期の湿害回避をねらうものです。

本年は、4月28日の圃場準備に始まり、6月7日に播種し、初期生育の調査などを経て、10月31日に収穫を終えました(写真1~4)。

本技術は、生産者が持っている機械を使えば、低コスト(改造費約4万円)で実施可能です。県内では約100haで導入されています。

大豆の湿害に悩む生産団地では、ぜひこの技術の導入をご検討ください。



写真1 額縁明きよ及び弾丸暗きよの施工 (4/28)



写真2 小畦立て播種 (6/7)



写真3 大豆の初期生育 (7/19)
左：小畦立て区、右：平畦区



写真4 コンバイン収穫 (10/31)

表 排水性から見た水田の分布状況(「水田麦・大豆振興指針」より抜粋)

排水性	水田の分布状況(%)												全県
	盛岡	花巻	北上	水沢	一関	千厩	大船渡	釜石	遠野	宮古	久慈	二戸	
排水良、営農排水のみで可能	33	4	5	1	12	9	12	48	64	18	13	27	15
排水やや不良、簡易暗きよ等の施工が必要	56	57	53	46	37	52	23	45	32	32	20	29	40
排水不良、本暗きよ等の施工が必要	12	13	26	43	31	28	21	7	4	25	60	41	32
強粘質や高地下水位等により不向き	0	26	16	10	20	11	44	0	0	25	7	3	13
麦・大豆目標面積(ha)	1,400	340	500	1,040	210	130	100	20	210	70	60	320	4,400

トピックス・3

オリジナル小ぎく「アイマム」シリーズの 開発により県事績顕著者表彰を受賞

農業研究センター園芸畑作部花き研究室は、小ぎくのオリジナル品種「アイマム」シリーズを開発し、本県の花き生産振興に貢献した事績により、平成18年度岩手県職員表彰の事績顕著者表彰を受賞しました。

農業研究センターでは、消費者の多様なニーズに応えるべく、新しいスプレータイプの小ぎくの開発に平成元年より取り組んできました。

生産者団体の協力により、最終選抜を現地で行うなど、これまでは6～7年かかると言われた新品種の開発年数を2～3年短縮し、これまでに14品種の育成を完了しました。

平成14年からは、本格的な苗の供給が開始され「アイマム」シリーズの栽培面積は年々順調に拡大しています。

これらの努力により、本県の小ぎくの栽培面積が全国第3位に躍進する原動力となったことが評価され、今回の受賞となりました。



写真1 阿部 潤・花き研究室長（左）と
川村浩美・主任専門研究員（右）



写真2 オリジナル小ぎく「アイマム」シリーズ
＜担当：企画経営情報部企画情報室 伊勢 智宏＞

お知らせ

農業科学博物館・第31回企画展 「稲づくり作業と農機具」を開催中です

農業ふれあい公園・農業科学博物館では、11月15日より2月上旬までの予定で企画展「稲づくり作業と農機具」を開催中です。

主な内容は下記のとおりです。

- ・ 稲作作業の昔と今
- ・ 田の草取りと除草用具の発達
- ・ 牛馬を使った農作業と用具の開発
- ・ 稲の取り入れ ～ 乾燥・脱穀

米づくりに使われた様々な農機具や、昭和30～40年代の農作業の様子を収めた貴重な写真を数多く展示しています。

なお、詳しい内容については、農業研究センターのホームページでも紹介しています。



編集・発行 岩手県農業研究センター 代表者 太田 義信

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1 電話 0197 (68) 4402 (企画経営情報部)
ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/> E-mail : CE0008@pref.iwate.jp